

2025 年 度

世 界 史

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～10ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I ヨーロッパ列強による「アフリカ分割」とその後の植民地解放に関する次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ G にあてはまる最も適切な語句(ただし A ～ D は国名)を記入し、下線部(1)～(10)に対応する問 1～10に答えなさい。

1930年11月2日、A 帝国の摂政ラス＝タファリ＝マコンネンが38歳で戴冠し、ハイレ＝セラシエ1世として即位した。その姿は、列強による支配と植民地解放をめぐる国際的舞台でたびたび目撃されることとなる。

ハイレ＝セラシエの外交上の孤独を運命づけたのは、列強の「アフリカ分割」だった。1884年から翌年にかけてベルリンで開催された会議で、⁽¹⁾コンゴの領有をめぐる対立が調停されるとともに、⁽²⁾「分割」の原則として、実効支配、先取権(最初に占領した国による領有)、占領の相互通告などが合意された。これによりヨーロッパ列強は瞬く間に大陸のほぼ全てを植民地化し、独立を維持したのは、アメリカの解放奴隷の入植により建国された B を除けば、A のみとなった。

A でも1880年代には C ⁽³⁾が北部の紅海沿海部の植民地化を進め、1890年までに領有した。さらに C は1895年、保護国化を掲げ A に本格的に侵攻した。皇帝メネリク2世の下に軍隊の近代化を進めていた A は、C の勢力伸張を嫌う D からの兵器供与を受けて反撃し、1896年北部のアドワで大打撃を与えた。当時 D ⁽⁴⁾は、その支配領域をアルジェリアからサハラ南部へ拡大し、さらに東進してスーダン方面に浸透する機会をうかがっていた。メネリク2世は「ヨーロッパを破ったハンニバル以来のアフリカ人」と⁽⁵⁾言われたが、一方その後の講和交渉では C の植民地の境界線承認と引き換えの形でオガデン(ソマリア地方内陸部)の領有を認めさせるなど、結果的にアフリカを分割する側に立った面も見落とせない。メネリク2世の従兄弟の子に当たるのが、ハイレ＝セラシエ1世である。

1916年に摂政となったハイレ＝セラシエ(当時はラス＝タファリ＝マコンネン)は皇帝から全権を委ねられ、国政を取り仕切るが、即位前のその最大の成果は1923年9月、奴隷制の廃止と引き換えに、国際連盟加盟を果たしたことである。列強が大

陸外からの移住者に建てさせた国を除けば、アフリカの加盟国は、1937年のエジプト加盟まで A のみだった。彼は即位の翌年、帝国初の成文憲法を定めた⁽⁶⁾が、その内容は絶対主義的で、自らの王朝を聖書に登場する古代イスラエルの王ソロモンと古代 A の「シバの女王」にさかのぼる不断の血統と規定し、帝位の神聖不可侵を謳っていた。

1935年10月、「アドワの報復」を掲げ、 C が A に侵攻した。国際連盟は効力に乏しい形式的な経済制裁を発動したが、 C は東アフリカでの D とイギリスの権益を侵さない姿勢を示し、列強の非難は尻すばみになった。毒ガスを使用した C は圧勝し、1936年5月、ハイレ＝セラシエは国外に脱出、 C は事実上の A 併合を宣言した。ロンドンへの亡命の途上、ハイレ＝セラシエは国際連盟総会で侵攻を激しく非難したが、総会はほどなくして圧倒的多数の支持により C に対する経済制裁を解除した。この間の国際連盟の対応は、侵攻の前々年に総会が別のある理事国による侵略行為に対して⁽⁹⁾とった対応とならび、列強による侵略行為に対する無策を示す事例とされる。

ハイレ＝セラシエの亡命生活は1941年、イギリスによる A 解放により終わる。彼は第二次世界大戦後も旧態依然たる専制を維持したが、外交活動には熱心だった。1955年にはバンドンでの E 会議に、1961年にはベオグラードでの非同盟諸国首脳会議に出席したが、彼が最も脚光を浴びたのは1963年、アジスアベバで開催したアフリカ諸国首脳会議だろう。当時のアフリカ独立国33ヶ国中30ヶ国の首脳を集め、ハイレ＝セラシエはアフリカ諸国の大同団結を訴え、首脳たちは地域機構 F の設立で合意した。冷戦により世界が分断されていた当時、この機構の設立は画期的だった。植民地主義の根絶、紛争の平和的解決、非同盟路線の堅持などを掲げた機構は、一方でたびたび紛争調停能力の限界を露呈しながらも、2002年にヨーロッパ連合型の地域統合を目指す G へと発展的に解消するまで、地域の安定に一定の役割を果たした。

ハイレ＝セラシエの数多い外遊のうち、最も熱狂的な歓迎を受けたのは、恐らく1966年のジャマイカ訪問だろう。アフリカ系のジャマイカ社会は、キリスト教に由来する土着的宗教運動、ラスタファリアニズムを育んできた。その教義は必ずしも明確でないが、即位前の彼の名「ラス＝タファリ」を戴くとおおり、ハイレ＝セラシエ

個人を崇拜する点が大きな特徴である。のちにボブ＝マーリーらのレゲエ音楽を通して世界に知られることになるこの宗教運動は、アフリカを「ザイオン」(シオン、すなわちエルサレム)⁽¹⁰⁾と呼び、アフリカ、とりわけ への帰還を訴えるものだった。ただしハイレ＝セラシエはこの運動の指導者たちに、帰還を急がず、まずジャマイカの社会的解放に努めよと諭したと言われる。

一方ハイレ＝セラシエの封建的内政は、1960年代以降 に深刻な経済停滞と頻繁な飢餓をもたらし、1974年、陸軍の反乱に端を発する体制崩壊のなか彼はずいに廃位され、軟禁中の宮殿で翌年までに死去した。ソ連の影響下にあった軍政当局に殺害されたとも言われる。

はその後長く独裁支配や内戦にあえぎ、いまま社会不安が解消されないが、 委員会はその本部をアジスアベバに置いてきた。委員会は2019年、本部前の広場に銅像を建て、ハイレ＝セラシエを顕彰した。

問1 列強間の調整役を自ら任じ、この会議を呼びかけた政治家は誰か。

問2 調停の結果、ベルギー国王の私有領が形式上独立国家として承認された。この国の名を答えなさい。

問3 このさい領有国が一方的に付けた領土名は、1993年、この地域が国際連合監視下の住民投票により独立したさい、国名に採用された。その国名を答えなさい。

問4 (a) この拡大政策は最終的に、紅海の入口付近に位置する自国植民地の中心都市への到達を意図していた。2011年以来日本の自衛隊が唯一の海外拠点を置いている、この都市の名を答えなさい。

(b) この政策の結果スーダンに到達したこの国の軍人と、この政策に対抗し鉄道敷設を目指して同地に到達した他国の軍人が1898年、ナイル河畔の都市で遭遇し、両国は紛争の危機に陥った。この都市の当時の名を答えなさい。

(c) (b)の危機は一方の譲歩により回避されたが、譲歩の大きな要因は、ユダヤ系士官に対する冤罪事件による、陸軍に対する国内世論の険悪化と言われる。1898年、「私は弾劾する」と題する告発を新聞に公表し、こうした世論を決定づけた作家は誰か。

問5 ハンニバルのヨーロッパ遠征を含む数次にわたる戦争の、北アフリカ側の当事国の名を答えなさい。

問6 この前年、イギリスがエジプトの主権を承認する条件として、エジプトにイギリス軍の駐屯権を認めさせた地帯に建設されていた施設は何か。

問7 この憲法の内容には、1889年に公布されたある国の欽定憲法が影響を与えたとされる。影響を与えた憲法の正式名称を答えなさい。

問8 (a) 戦争目的として「アドワの報復」を唱えた、当時の首相は誰か。

(b) この首相が率いた政党の名称を答えなさい。

問9 1933年の総会決議は、その理事国に当該地域の権益や鉄道沿線地帯への軍隊駐留を認めた。この理事国による侵略行為の発端となった1931年の鉄道爆破事件は、現場となった地名から何と呼ばれるか。

問10 一方この宗教運動の信者は、北米・カリブなど祖先が奴隷として売られて来た地域を、聖書に見られる別の都市になぞらえて呼ぶ。前6世紀にユダ王国が滅ぼされたさい、有力者らが連行され囚われたとされる、その都市の名は何か。

II ウクライナとロシアの争いには、どんな歴史的背景があるのだろうか。次の文章の空欄 [A] ～ [J] にあてはまる最も適切な語句を後の語群(あ)～(と)から一つ選び、記号で答えなさい。

両国の直接の起源は、スカンディナヴィア方面から南下してきた [A] 人が、9世紀に建てた [B] 国だといわれる。もっともそれ以前にもこの地域には [C] 人がさまざまな種族に分かれて居住しており、両国の起源をもっと前にさかのぼる考え方もある。

[B] 国は、はじめは南下して [D] 国を脅かしたが、徐々に関係を深め、キリスト教を受け入れた。その後 [B] 国はいくつもの侯国に分裂し、13世紀には [E] 人が建てた [F] 国に支配されることになった。他方ウクライナには、[B] 国分裂後も小さな侯国が存続していたが、やがて14世紀にはリトアニアと [G] に併合された。ロシアでは [F] 国の支配下で [H] 国が勢力を強め、15世紀には [F] 国を破り、[I] の下でロシアの統一を推進した。さらにロシアは徐々に西方へも勢力を広げ、リトアニアを破ってウクライナの東部を奪取した。さらに18世紀には [G] の分割によって同国が支配していた地域も獲得して、ウクライナの大半がロシアの支配下に入った。

ロシア革命によって [J] が退位し帝政が崩壊すると、ウクライナにも革命組織が結成され、独立した共和国の樹立が宣言されたが、第一次世界大戦後のソ連の成立にあたって、ウクライナはソ連を構成する共和国の一つとなった。1991年のソ連崩壊にともない、ウクライナ最高議会が独立を宣言し、国民投票を経て正式な独立が達成された。

語群

(あ) イヴァン 3 世	(い) イル＝ハン	(う) キエフ公
(え) キプチャク＝ハン	(お) 神聖ローマ帝	(か) スラヴ
(き) ニコライ 2 世	(く) ノルマン	(け) ノルマンディー公
(こ) ハンガリー	(さ) 東フランク王	(し) ビザンツ帝
(す) ピョートル 1 世	(せ) フランク	(そ) プロイセン
(た) ポーランド	(ち) マジャール	(つ) モスクワ大公
(て) モンゴル	(と) ローマ	

Ⅲ 日本にはじめて伝えられたキリスト教は、ローマ＝カトリックであった。その背景を述べた次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ C にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線部(1)～(4)に対応する問 1 ～ 4 に答えなさい。

日本へはじめてキリスト教を伝えた人物は、 A である。16世紀半ばにポルトガル人が種子島に到着して以来、日本とヨーロッパの交流は開始されていたが、 A 一行 8 人による鹿児島到着が、日本におけるローマ＝カトリック教会の宣教の第一歩となった。

A はフランスとスペインの国境にあったナヴァラ王国の生まれで、イグナティウス＝ロヨラをはじめ 7 人いた B の創立者の 1 人であり、同会の司祭であった。 B の宣教精神は、同会の会憲にも表れているように、イエスの宣教命令「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコによる福音書 16 章 15 節)に由来するものであった。ヨーロッパでは宗教改革⁽³⁾によってプロテスタントの勢力が増し、ローマ＝カトリックは権威の回復をめざしたが、 B の創設と C 公会議の開催はカトリック改革(対抗宗教改革)の表れであった。そのような、ローマ＝カトリックの失地回復を期待された B にあって A は、ポルトガル国王ジョアン 3 世の要請を受け、インド、東南アジアへの宣教へと赴くこととなったのである。

また、時は大航海時代でもあり、⁽⁴⁾スペイン・ポルトガルのイベリア両国は、トルデシヤス条約などによって大西洋上を縦に引かれた 1 本の線を境に、それぞれ地球を西向きと東向きにまわって海外へ進出していた。そして両国はキリスト教(ローマ＝カトリック)国であり、ローマ教皇は両国王に布教(教会)保護権を与えていた。布教保護権とは、その支配地域において両国王が布教の推進とその経済的援助を負うことを義務づけるが、他方、その支配地域での宣教師や司教などの人物選択に関する権利を与えたものである。ローマ＝カトリックが日本へと至る経緯には、これら時代状況の背景があった。

(出典：土井健司監修『1冊でわかるキリスト教史』より引用。文章は一部改変)

(落合建仁(著) | 第5部 日本 | pp.193-194)

問1 この人物は日本で宣教活動をした後、明朝中国での宣教活動を試みたが、実現できないまま上川島で病死した。明朝中国での宣教の礎は、彼と同じ修道会に所属する人物によって築かれた。北京の宮廷に招かれて万暦帝に謁見し、北京滞在を許可されたこの人物の名前を答えなさい。

問2 (a) ポルトガルが1510年に占領し、以後、ポルトガルのアジア交易やキリスト教布教の中心地ともなったインド西岸の港市の名前を答えなさい。

(b) ポルトガルが15世紀から熱心に東方への海路を開拓したのは、イスラーム国家の支配地域を迂回して東方諸地域と交易を行うためであった。1453年にビザンツ帝国を滅ぼし、イスタンブルを首都としたこのイスラーム国家の名前を答えなさい。

(c) 1498年にヨーロッパからインドに海路ではじめて到達したポルトガル人の名前を答えなさい。

問3 (a) ルターの宗教改革の広がりには、印刷術と紙によってももたらされた。15世紀半ばに活版印刷術を改良して実用化したドイツ人の名前を答えなさい。

(b) 宗教改革によって生まれたプロテスタントは、19世紀前半に、プロイセン生まれの宣教師カール＝ギュツラフによってはじめて日本(現在の沖縄県那覇市)に伝えられた。当時、首里に都を置いていた王国の名前を答えなさい。

問4 中南米に上陸したスペイン人の「征服者」(コンキスタドール)の一人で、ペルーのインカ帝国を滅ぼした人物の名前を答えなさい。

IV イスラーム世界の分裂と拡大に関する次の文章を読んで、文中の空欄 A ～
 H にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線部(1)・(2)に対応する問1・2に答えなさい。なお、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ7世」)

7世紀にアラビア半島に起こったイスラームはアラブ人の征服活動とムスリム商人の商圏の拡大とともに各地に広がった。当初は預言者ムハンマドの代理者がカリフと呼ばれて共同体を統治する形態が続いたイスラーム国家だったが、 A に都をおいたアッバース朝の時期には、前代のウマイヤ朝の一族が西方のイベリア半島で後ウマイヤ朝を建てるなどカリフの権威が分裂した。その後、アッバース朝カリフの力が衰えると、 B と呼ばれる各地の総督の地方政権の自立が進むとともに、さらなる権力の分極化が進行した。10世紀になるとそれらの地方政権の中から現れた C 朝は A を占領し、アッバース朝のカリフを傀儡化した。このようにイスラーム世界は一つの中央政権が束ねることができないほどに分裂しつつ拡大していった。

11世紀には、 C 朝から A の支配権を奪ったトルコ系の D 朝はアッバース朝のカリフから、アラビア語で王や権威を意味する E の称号を与えられた。その後、 D 朝の一族が建てたアナトリアの地方政権は、
(1) ローマ＝カトリック教会が宗教会議で呼びかけ結集した十字軍勢力と対峙した。一方で、アフガニスタンにおいて自立したガズナ朝や、その支配地域の中からさらに分立した F 朝は相次いで北インドに進出した。さらに13世紀以後北インドのデリーを根拠に成立したインド初のイスラーム王朝である奴隷王朝を嚆矢とするデリー＝ E 朝が北インドを中心にインドに勢力を固めると、インドにイスラームの教えが広まっていくこととなる。その後16世紀に再び中央アジアからインドに侵入したバーブルによって建国された G の時代になると、インドではイスラームが深く根を下ろしていた。その間、もともとあったヒンドゥー教などインド古来の信仰と対立しつつ共存していくことにより、
(2) 現地に新たなインド＝イスラーム文化という融合文化も生み出した。

他方、海を通じてイスラームは拡散した。ムスリム商人は当初地中海沿岸に広

がったイスラーム国家を拠点に南地中海と東地中海の商業を握り、さらにインドとの間でもペルシア湾岸からインド方面への交易路でインドの商人と覇権を競った。

10世紀を過ぎると前述の権力の分極化とアッバース朝の傀儡化により、ペルシア湾岸の治安が悪化し、海を通じた東西交易の中心のルートがエジプト、イエメン側の紅海へと移った。紅海沿岸には12～15世紀に 商人と呼ばれたムスリムの商人たちが繁栄し、当時のエジプトのアイユーブ朝、マムルーク朝の庇護を受け南インドまで進出した。その後インド洋はヨーロッパ商人とムスリム商人の角逐の場となるが、その過程でイスラームはさらに東方に進出し、15世紀半ば過ぎには、現在のマレーシア、インドネシアやフィリピンの地域にまで定着していくこととなる。

問1 朝の圧迫を受けた東ローマ皇帝の要請を受け入れ、聖地奪回のために十字軍を起こすことを提唱した当時のローマ教皇の名前を答えなさい。

問2 この文化を代表する建築として知られる、 の皇帝が愛妃の墓廟として建設した建築物の名前を答えなさい。